

## Ⅱ キャリア教育で育成すべき力ー「基礎的・汎用的能力」とはー

「基礎的・汎用的能力」は、次の①～④の能力で構成されます。

この4つの能力は、それぞれが独立したものではなく、相互に関連・依存した関係にあります。このため、特に順序があるものではなく、また、これらの能力を全ての者が同じ程度あるいは均一に身に付けることを求めるものではありません。

### 内容

### 具体的な要素

#### 1 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。

この能力は、社会とのかかわりの中で生活し仕事をしていく上で、基礎となる能力です。

- 他者の個性を理解する力
- 他者に働きかける力
- コミュニケーション・スキル
- チームワーク
- リーダーシップ 等

#### 2 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。

この能力は、子供や若者の自信や自己肯定感の低さが指摘される中、「やればできる」と考えて行動できる力です。

- 自己の役割の理解
- 前向きに考える力
- 自己の動機付け
- 忍耐力
- ストレスマネジメント
- 主体的行動 等

#### 3 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。

この能力は、自らが行うべきことに意欲的に取り組む上で必要なものです。また、知識基盤社会の到来やグローバル化等を踏まえ、従来の考え方や方法にとらわれずに物事を前に進めていくために必要な力です。

- 情報の理解・選択・処理 等
- 本質の理解
- 原因の追究
- 課題発見
- 計画立案
- 実行力
- 評価・改善 等

#### 4 キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。

この能力は、社会人・職業人として生活していくために生涯にわたって必要となる能力です。

- 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解
- 多様性の理解
- 将来設計
- 選択
- 行動・改善 等